

理科(生物) 名古屋大学 理学部, 農学部, 医学部, 情報学部
 (自然情報学科, コンピュータ科学科) (前期) 1 / 1

<全体分析>

試験時間 情報学部-自然 1科目で75分
 情報学部-コン・医・理・農学部
 2科目で150分

解答形式前期

記述・論述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

グラフを作図する問題が出題された。

「生物」からの出題割合が高く、「生物基礎」からの出題割合が低い。

その他トピックス

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	記述 論述 選択	抗生物質と遺伝子組換え	生物	(5) tetR タンパク質のリプレッサーとしてのはたらきを把握するのが難しい。	やや難
II	記述 論述 選択	シグナル伝達	生物	酵素Aが調節タンパク質BとCの両方にはたらく仕組みを理解するのが難しい。	やや難
III	記述 論述 選択 描図	植物の形態形成	生物	(7) 管状要素への分化を促進する物質がタンパク質であることはわかるが、これがタンパク質Xであるかどうかは判断できない。	やや難
IV	記述 論述 選択	生物群集	生物基礎 生物	(8) CによるBへの間接効果を理解するのが難しい。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

単に知識を問われる問題の割合は低いですが、知識に基づいた考察問題も出題されるので、まずは教科書の内容を正確に習得することが大切である。また、文章が長く、内容も複雑なものも多いので、普段から、問題文はきちんと読むことを心掛け、問題集などを活用して実験・考察問題の演習を十分に行っておこう。